



竹の子川柳会

たいうように変わって光るお月さま

小学校三年生

しゃぼん玉フワフワうかぶやねの上

小学校三年生

おそろみてきいろい月がみつめてる

小学校三年生

少しずつ月のかたちが変わってく

小学校四年生

夏休み楽しいことがいっぱい

小学校四年生

青い空たくさん浮かぶ白い雲

小学校五年生

声がわりまだかまだかと送る日々

小学校六年生

明日へと夏空の下走り出す

小学校六年生

コロナ禍で常識変化のマスク義務

中学校三年生

変わろうと気合を入れて二学期だ

高校一年生

目を閉じて想い浮かべる好きな人

高校一年生

夏休みあつという間に過ぎていく

高校二年生

ひよし川柳会

友情を超えて芽生えた恋心

伊勢本 恵

こんこんと説明されて頷く子

水野すみこ

納得は出来ぬ話に手を打てず

兵頭チヨカ

廃校の跡地で学ぶ金次郎

中城 英雄

無学でも誠実さには退けとらぬ

山本 雅之

待ちわびたやつと聞こえた呱呱の声

川添 忠昭

聞く耳を持たぬ政治が腐敗する

山本 節

足腰は弱ってますが声は出る

若宮 賢敬

ひと間だけ母に畳の設計図

大崎 五葉

旅帰り畳の匂い家のお茶

木村 貞子

極楽は大の字という青畳

渡辺 光男

学舎も老人施設の場と生きる

菅原 由紀

ありがとうその一声でいい空気

熊本 忠真

悩み事受けて山彦意見する

宇都宮 忍

鬼北の足跡をたどる【第4回】 鬼北の「鬼」と等妙寺旧境内

江戸時代初期に成立した『等妙寺縁起』によれば、等妙寺の由来は「曾我物語」（鎌倉時代に原型ができた軍記物語で、日本三大仇討ちの一つ。南北朝時代には本になり、江戸時代には歌舞伎や浄瑠璃などで演じられた）の主人公である「曾我兄弟」とその従者「鬼王 段三郎」にまつわる伝承で彩られています。これを読み解くと等妙寺は、「背後にそびえる広大な信仰空間「奈良山」の神と、その従者である「おに」を祀るために建てられた」ということがわかります。そこには鬼北の「おに」、つまり祖先の霊・山の神の信仰が垣間見え、心のよりどころ、祈りの対象として今日まで語り継がれてきたのでしょう。国史跡等妙寺旧境内の近年の発掘調査等により、かつて等妙寺は「奈良山信仰の拠点寺院」として営まれたことが裏付けられました。また、周辺の山中では山岳信仰・霊場遺跡の発見が相次いでおり、等妙寺旧境内はまさに日本古来の山岳信仰由来の「おに」＝鬼北の「おに」を象徴する歴史遺産といえます。等妙寺旧境内という遺跡を調査・整備・活用していくことは、鬼北のまちづくりにとって極めて重要な意味を持っているのです。



▲等妙寺旧境内の中心部の様子



▲山岳信仰・霊場遺跡「彦惣岩屋」